

出エジプト記

出エジプト記は聖書の2番目に収

められている書で 創世記からの続きです創世記は

アブラハムの孫のヤコブが 70 人の大家族を引き連れてエジプト

に来たところで終わりました ヤコブの 11 番目の息子であるヨセフ

は エジプトで 2 番目の権力者になり

家族を飢饉から救いました そしてファラオがエジプトに避難

してくるようと ヨセフの家族を招いたのですその後

ヤコブはエジプトで死に やがてヨセフもその兄弟たちも

みな死にました それから 400 年後出エジプトの話

が始まります 出エジプトとは前半に記されている

イスラエルがエジプトから 脱出した時のことでそれがこの

書の名前になっています 後半はシナイ山のふもとで起こった

出来事ですが このビデオでは前半を見ていき

ます ヨセフの時代から何百年も過ぎ

イスラエル民族は多くの子を 生んで増えてその地は彼らで満ち

た この表現はエデンの園で全人類

に与えられた 神の祝福を指しています

さらに聖書のここまでの流れをも 思い出させます

人間は罪と背きのために神の祝福を 失いましたが

神はその祝福を回復し世界中に 届けるため

アブラハムの子孫を選びました しかし新しいファラオはイスラエル

を祝福とはみなしませんでした むしろ数を増し加えていく外国人

であるイスラエルに 脅威を感じたのですそこで創世記

で人類が神の祝福をはねつけた ようにファラオは神の祝福をも

たらずイスラエル人を迫害しました イスラエル人を奴隷として働かせ

たうえに 男の子が生まれたりナイル川に

投げ込めと命じたのです このファラオは聖書のここまでの

話の中で最悪の人物です 彼の王国は神に背く人間たちを

象徴していました ファラオは自分の利益を基準に

善と悪を定義し 無垢な子供を殺すことさえ良し

としたのです エジプトは創世記に出てくるバビロン

よりさらに 悪い国になりました

そこでイスラエルはこの新しい バビロンからの助けを叫び求め

神はそれに答えます 神はまずファラオの犯した悪事

を逆手に取りました イスラエルの一人の母親が男の

赤ちゃんをナイル川に流しました が
かごに入れていたのでその子は ファラオの娘のもとに
流れ着きました その子の名はモーセ
彼はやがてファラオの悪を打ち 破るため
神に用いられる男に成長するの です
有名な燃える柴のエピソードで 神はモーセに現れ
ファラオの元に行きイスラエル を解放するように命じる
役割を与えますそして神はファラオ がそれに反抗するから
災いを送ってエジプトを裁くと 言われました
同時にファラオの心をかたくなに するとも言われたのです
こうしてストーリーは神とファラオ の対決という
中心部分に入っていきます さて神がファラオの心をかたく
なにすると言われたのは どういう意味だったのでしょうか
この箇所は注意深く順を追って 読んでいく必要があります
まずモーセとファラオが初めて 出会った場面では
単にファラオの心が頑なになった としかなく
神がファラオに何かをした様子 はありません
ファラオの態度に応じて神はま ず 5つの災いを下しました
それぞれファラオとエジプトの 神々と対決する災いでした
そしてモーセはその都度 ファラオにへりくだってイスラエル
を去らせる チャンスを与えたのです
しかし毎回ファラオは心を硬くした あるいは心が頑なになったと書
かれています それは彼自身の意思によるもの
でした そして残りの 5つの災いを下すとき
になって 神がファラオの心をかたくなに
され始めたのです つまりこういうことです神はファラオ
がご自分に逆らうことを ご存知でしたがそれでも正しい
選択をするチャンスを与えました けれどもファラオの悪質な反抗
はついに一線を越えたのです 彼の取り巻きでさえファラオは
正気を失ったと思いました 神がファラオの邪悪さをご自分の
贖いの目的のために利用され 始めたのはこの時です
ファラオを破滅に仕向けイスラエル の民を救い出したのです
最後の災いが起こるのは過ぎ越 しの夜です
ファラオは手ひどいしっぺ返し をくらいました
彼がイスラエルの男の子たちを殺した ように
神もエジプトの長男たちを殺す のですただしファラオと違って

神は子羊の血をもってその災いを逃れるという道を備えられました
ここでストーリーは中断しイスラエルで年に一度行われる
過ぎ越しの儀式についての説明がされます
エジプトを去る前夜イスラエル人は傷のない子羊を殺し
その血を家の門柱と鴨居に塗りました
そして神の災いがエジプトを訪れた時子羊の血が塗られていた
家は過ぎこされ息子も死をまぬがれたのです
それ以来イスラエル人は毎年神の正義とあわれみを覚えて感謝する
ためにその夜の出来事を再現し祝います
一方ファラオはその高慢と反逆のために自分の息子を
死なせてしまいついにイスラエル人を去らせることを
余儀なくされましたところがイスラエル人が奴隷に
されていたエジプトから脱出するやいなやファラオは心
変わりし軍隊を集めて彼らを追い始めました
イスラエル人が無事に海を渡ったあと
ファラオは破滅に飛び込んでいったのです
出エジプトの物語はモーセの歌という聖書に記された
最初の賛美の詩で閉じられますこの詩の最後の行は王なる神が
統べ治めると宣言しますこの歌は神の国の物語について
歌っていますそれは神が世界中の悪を打ち破り
その悪の奴隷になっている者を贖い出しご自分の民を約束の地
に導きそこで神が彼らのうちに住む
という内容ですこのストーリーは神がご自分の
民の王となられたときの様子を描いています
イスラエル人がこの歌を歌ったあと事態は急展開を迎えます
シナイ山を目指して荒野あらのを歩き続けていたイスラエル人は
空腹を覚えのどが渇くとモーセと神に
助けもらったことに文句を言い始めたのです
彼らは愚かにもエジプトでの日々がなつかしい
とまで言っただけでした神は寛大にもそんな彼らに荒野
で食べ物と水を与えましたこれらのエピソードは暗い疑問
を抱かせますイスラエル人の心もファラオの心
と同じくらいかたくななのではないか
それは次のビデオで明らかになりますが今日はここまで
これが出エジプト記の前半です

『出エジプト記』は聖書の 2 番目に収められている書で、創世記からの続きです。創世記はアブラハムの孫のヤコブが 70 人の大家族を引き連れてエジプトに来たところで終わりました。ヤコブの 11 番目の息子であるヨセフはエジプトで 2 番目の権力者になり、家族を飢饉から救いました。その後、ヤコブはエジプトで死に、やがてヨセフもその兄弟たちもみな死にました。それから 400 年後、出エジプトの話が始まります。出エジプトとは、前半に記されているイスラエルがエジプトから脱出した時のことで、それがこの書の名前になっています。後半はシナイ山のふもとで起こった出来事ですが、この要約では前半を見ていきます。

イスラエル民族はヨセフの時代から何百年も過ぎ、多くの子を生んで増えてその地は彼らで満ちた。この表現はエデンの園で全人類に与えられた神の祝福を指しています。聖書の流れを思い出すと、人間は罪と背きのために神の祝福を失いましたが、神はその祝福を回復し、アブラハムの子孫を選びました。しかし、新しいファラオはイスラエルを祝福とはみなさず、むしろ数を増やしていく外国人であるイスラエルに脅威を感じました。ファラオは神の祝福をもたらすイスラエル人を迫害し、奴隷として働かせ、男の子が生まれたらナイル川に投げ込むよう命じました。このファラオは聖書の中で最悪の人物で、彼の王国は神に背く人間たちを象徴していました。

神はファラオの悪事を逆手に取り、イスラエルの一人の母親が男の赤ちゃんをナイル川に流しましたが、かごに入れていたのでその子はファラオの娘のもとに流れ着きました。その子の名前はモーセであり、やがてファラオの悪を打ち破るために神に用いられる男に成長します。有名な燃える柴のエピソードで神はモーセに現れ、ファラオの元に行き、イスラエルを解放するように命じる役割を与えます。そして神はファラオがそれに反抗するから災いを送ってエジプトを裁くと言われました。同時にファラオの心をかたくなにするとも言われたのです。こうしてストーリーは神とファラオの対決の中心部分に入っていきます。

神がファラオの心をかたくなにすると言われたのは、ファラオが自分の意思によって正しい選択をせず、毎回神のチャンスを無視し、悪質な反抗を続けたためです。最終的に、神はファラオを破滅に仕向け、イスラエルの民を救い出しました。出エジプトの物語は、モーセの歌という聖書に記された最初の賛美の詩で閉じられます。この詩は神の国の物語について歌っており、神が世界中の悪を打ち破り、自分の民を約束の地に導くという内容です。

しかし、イスラエル人は荒野で食べ物と水が不足し、神に不満を言い始めました。彼らはエジプトでの生活を懐かしく思い出しましたが、神は寛大にも食べ物と水を与えました。次のビデオで、イスラエル人のかたくなな心について詳しく探求します。

